

セゾンエアコン 据付説明書

FDRVXP 402B, 452B, 1122B～1602B **FDRP** 502B～802B
FDRV 502B～802B

PJR012D304

〈お願い事項〉

- 取扱説明書を見ながら、お客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
- 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようにお客様にご指導ください。
- 電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通電され エアコンを使用しなくても電力を消費することになります。
- 本機はダクト機です。直吹きでは使用しないでください。

お願い

- 下記に示すような場所での据え付け、使用は避けてください。
- ▶病院などの電磁波を発生する機器の近く、高周波の発生する機器の近く。ノイズ発生によるコントローラの誤作動の原因となります。
 - ▶潮風が当たる所(海浜地区)。外板、熱交の腐食の原因となります。
 - ▶油の飛沫や蒸気の多い所(例:調理場、機械工場)、外気が流入しやすい所での据え付け、使用は避けてください。熱交換機のパフォーマンス低下・腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。
 - ▶腐食性ガス(亜硫酸ガスなど)、可燃性ガス(シンナー、ガソリンなど)の発生、滞留の可能性のある場所。揮発性引火物を取り扱う所での据え付け、使用は避けてください。熱交の腐食、プラスチック部品の破損の原因となります。又、可燃性ガスは発火の原因になることがあります。
- 溶接作業時などに発生するスパッタが本ユニットにあった場合、ユニットに損傷を与える可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの進入を防ぐため梱包状態のままとしてください。

⚠ 注意

- 下記に据え付け上の注意事項を示しますので必ずお守りください。
- ▶直射日光の当たる所にリモコンを設置しないでください。リモコンの故障や変形の原因になることがあります。
 - ▶アースを取ってください。アース線はガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アースが不完全な場合は、誤動作や感電の原因となることがあります。
 - ▶漏電ブレーカの取り付けが必要です。漏電ブレーカが取り付けられていないと感電や火災の原因となることがあります。
 - ▶エアコンの重量に十分耐えられる場所に確実に設置してください。据え付けに不備があるとユニット落下によるケガや振動運転音増大の原因になります。
 - ▶冷媒ガスが漏れた時、室内の冷媒濃度が限界濃度(0.3kg/m³)を超える恐れがある場合は、窒息防止のため隣室との間の開口部やガス漏れ検知警報と連動する機械換気装置等の取り付けが必要となりますので、お買い上げの販売店にご相談ください。

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下・振動・騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない・暖まらない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吸出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない・暖まらない	

適用機種	P,VXPシリーズ	40～56	63～80	112～160
	VPシリーズ	—	50～63	71・80
サイレントパネル	フラット	R-PNS-27WB	R-PNS-37WB	R-PNS-47WB
	天井材嵌めこみ	R-PNBS-27WB	R-PNBS-37WB	R-PNBS-47WB
キャンバスパネル	フラット	R-PNC-27WB	R-PNC-37WB	R-PNC-47WB
	天井材嵌めこみ	R-PNBC-27WB	R-PNBC-37WB	R-PNBC-47WB

① 据付のまえに

○据付はこの据付説明書に従って正しく行なってください。
○工事計画にあっておりますか。




機種・電源仕様

確認してください




配管・配線・小物部品

付属品

① ドレン配管用

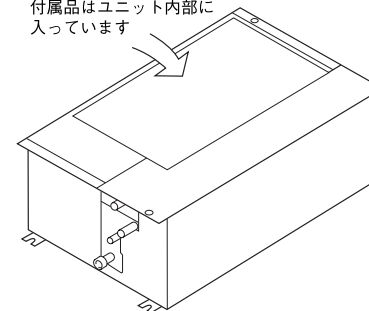
1	パイプカバー		2個	ドレンソケット用
2	ドレンホース		1個	
3	ホースクランプ		1個	ドレンホース用

② フレアナット部断熱用

1	パイプカバー		1個	ガス側用
2	パイプカバー		1個	液側用
3	バンド		4個	

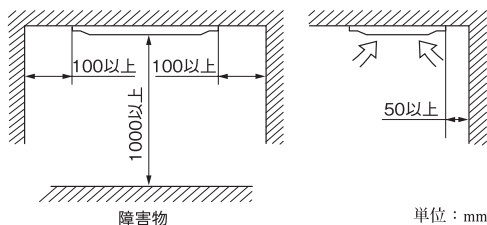
付属品収納場所（梱包時）

付属品はユニット内部に入っています



② 室内ユニットの据付場所の選定

室内ユニット据付スペース



お願い

- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますのでサーキュレータの併設をご指導ください。
 - 室外への配管、配線のしやすい所。
 - ドレン排水が完全にできる所。
 - 据付部の天井が強固である所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤作動しない所。ショートサーキットしない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。

高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、結露に対する配慮をしてください。
本ユニットはJIS露付条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認されておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度雰囲気の状態で運転すると水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用する可能性がある場合には、ユニット本体のすべての配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。

- 据付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら、板、桁等で補強して据付作業を行ってください。
- 天井裏高さが下記の高さを有する所。

機種	P,VXPシリーズ	40～80	112～160
	VPシリーズ	50～63	71・80
	サイレントパネルとの組合せ	365mm	416mm
	キャンパスパネルとの組合せ	459mm	510mm

警告

- 据え付けは重量に十分に耐える所に確実に行ってください。
- 強度不足や取り付けが不完全な場合には、ユニットの落下によりケガの原因になります。

④ ユニットの搬入、据付

搬入



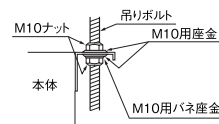
お願い

- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- やむをえず解梱して搬入する場合はナイロンスリングまたは、ユニットを傷つけないよう当て板をしてロープで吊り上げてください。
- 解梱後ユニットを置く場合は必ずユニット床面側を上にして置いてください。

据付

〈吊り込み〉

- ユニットを吊り込んでください。



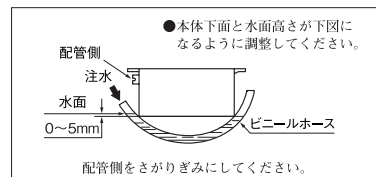
- 本体を据え付けたとき、本体と天井穴の寸法が出ないときは、据付金具が長穴になっていますので調整してください。



水平度の調整

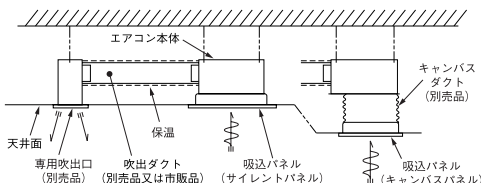
お願い

- 水準器を使用するか、下記の要領で水平度の調整を行ってください。



- 水平度がでない場合とフロートスイッチの誤作動あるいは不動作の原因となります。

⑤ ダクト工事



お願い

- 風量、機外静圧の計算を実施しダクトの長さ、形状、吹出口を選定してください。算出方法は、技術資料を参考にしてください。

① 吹出ダクト

- φ200円形ダクトにより、下表に示すスポット数で使用してください。

機種	P.VXPシリーズ	40~56	63~80	112~160
	VPシリーズ	—	50~63	71・80
スポット数		2	3又は2	4又は3

- 各スポット間のダクト長さの差は、2対1以内としてください。
- ダクトは、最短長さとなるよう施工してください。

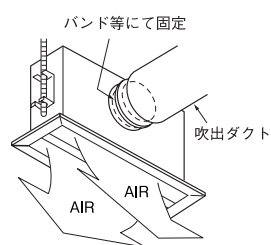
お願い

- 曲りは極力少なくしてください。(曲げRは極力大きくしてください。)



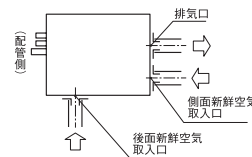
- 本体・吹出口のダクトフランジとの接続は、バンドを締め固定してください。さらに固定部分に断熱材を貼り結露防止を行ってください。
- 露付防止・吸音のため、吸音断熱付フレキシブルダクトの使用を推奨いたします。(別売品 1m、2m、4m があります。)
- 天井貼付前にダクト工事を実施してください。

② 専用吹出口



- 専用吹出口は、室内全般に空気が流れるような所に据付けてください。
- ダクト接続は、φ200円形ダクト専用です。
- 専用吹出口の取付及びダクトとの接続は天井貼付前に行ってください。
- ダクト固定バンド部を断熱し、結露防止を行ってください。

③ 給・排気ダクトの接続



④ 新鮮空気取入

- 後面又は、側面のどちらか工事の容易な方の取入口を使用してください。
- 同時給排気を行う場合は、後面新鮮空気取入口を使用してください。(側面は使用不可)
- 排気 (必ず給気を併用してください。)
- 側面排気口を使用してください。
- ダクト接続
 - 別売品の給排気用ダクトフランジ (φ125丸形ダクト接続用) を利用し、φ125丸形ダクトを接続してください (バンド締め)。
 - ダクトは結露防止のため、保温してください。

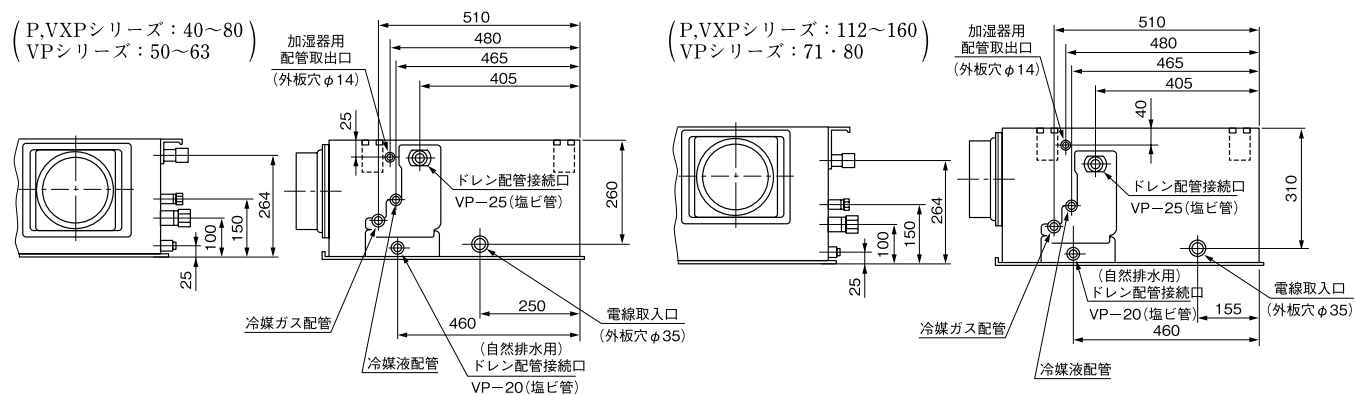
ご案内

4スポットを3スポット、3スポットを2スポットに改修する場合は、専用塞ぎ板を別売品として用意しています。中央いづれかを塞いでください。

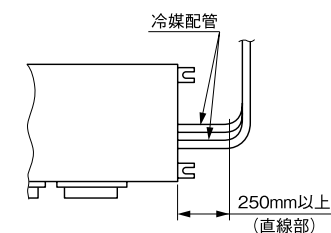
(注: 2スポットから1スポットへの改修は、行わないでください。)

⑥ 冷媒配管 は室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

配管位置



配管工事



お願い
冷媒配管工事は、上図のように直線部を250mm以上とって行ってください。
(ドレンポンプのサービスに必要です。)

冷媒配管時の注意事項

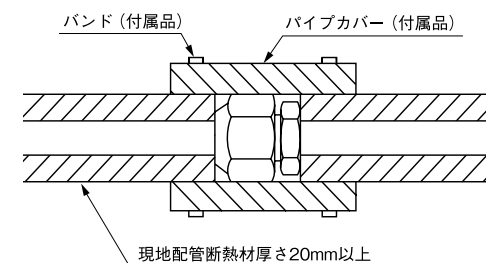
フレアナット締付トルク

φ 6.35	14～ 18(N・m)
φ 9.52	34～ 42(N・m)
φ 12.7	49～ 61(N・m)
φ 15.88	68～ 82(N・m)
φ 19.05	100～120(N・m)

ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

※液側配管は断熱しないと結露し、水漏れします。

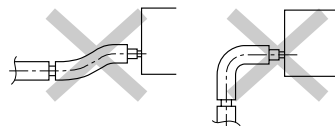
- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。
(このときガスが出るがありますが、異常ではありません)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3～4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
- 配管は下記材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸銅継目無銅管 (C1220T、JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。



⑦ ドレン配管

工事要領 (ツイン機、トリプル機の場合は全てのユニットに行ってください。)

- 付属のドレンホースとVP-25用継手の接着はユニット吊下げ前に実施してください。
- ドレンホースは、ユニットあるいは、ドレン配管の据付時の微少なずれを吸収するためのものです。故意に曲げて使用された場合、破損し、水漏れに至る場合があります。



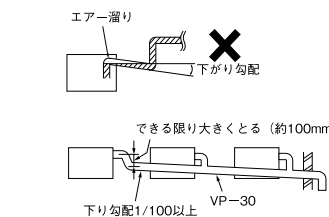
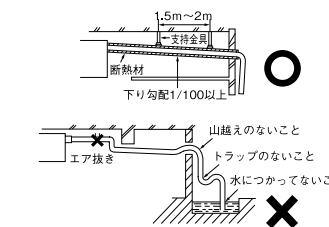
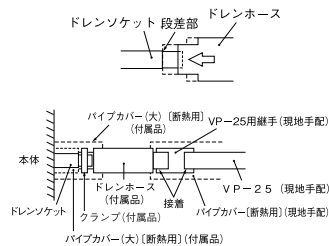
- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般管VP-25を使用してください。
- 付属のドレンホース(軟質塩ビ端)をユニットのドレンソケットの段差部まで装着し、付属のクラップで確実に締付けてください。

《接着剤使用不可》

- ドレンホース(硬質塩ビ端)に、VP-25用継手(現地手配)を接着・接続し、この継手にVP-25(現地手配)を接着・接続してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- ユニットから出たドレン配管を下がり勾配としなでください。エアが溜りユニット停止時の音の発生原因となります。
- 複数台のドレン配管の場合、本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。

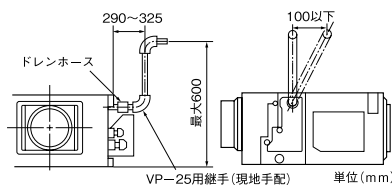
- 結露が発生し、水漏れをおこす可能性がありますので、下記2ヶ所は確実に断熱してください。
- ▶ ドレンソケット部
排水テスト実施後、パイプカバー(小:付属品)をドレンソケット部に装着したあと、パイプカバー(大:付属品)にてパイプカバー(小)、クラップ及びドレンホースの一部を覆い、テープによりすきまのないように巻いてください。

- ▶ 室内にある硬質塩ビパイプ
● 室内にある硬質塩ビパイプは必ず保温してください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。
- ドレン配管は、イオウ系有害ガス及び可燃性ガスの発生する下水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。



★ドレンヘッドを高くしたい場合

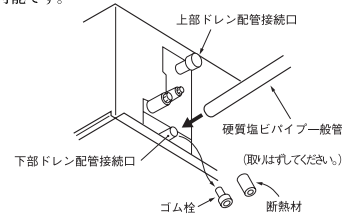
- ドレン配管の出口高さは、サイレントパネルの場合は、天井面より65cm、キャンバスパネルの場合はユニット下面より60cmまで高くすることができますので、天井内に障害物等がある場合にエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上げるまでの距離が長いと、運転停止時におけるドレン逆流量が多くなりオーバーフローの恐れがありますので、下図の寸法内で処理願います。



その他工事要領は通常のドレン配管工事と同一とします。

下部ドレン配管工事要領 [配管接続]

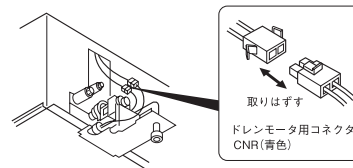
ドレン配管に下り勾配(1/50~1/100)が可能な場合下図要領にて下部ドレン配管接続が可能です。



《ドレンモータ用のコネクタの取り外し》

下図に示すようにドレンモータ用コネクタCNRを取り外してください。

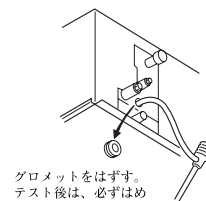
(注: コネクタを接続したままで使用すると、上部ドレン配管接続口よりドレン水が排出され水漏れとなります。)



排水テスト

- ドレン配管工事の完了後に、排水が確実に行われていること、接続部およびユニットのドレンパン部からの水漏れのないことを確認してください。
- 暖房期の据え付けの際にも必ず実施してください。
- 新築の場合には天井を張る前に実施してください。

1. 右図要領にて給水ポンプなどを使用して、本体ドレンパンの中へ約1000ccほどの水を注入してください。
注水ホースを20mm~30mm差し込んで注水してください。
(注水ホースは必ず下向きに差し込んでください。)
2. ドレン排水しているか排水口部でご確認ください。
※ドレンポンプの回転音を確認しながら排水するかどうかテストしてください。
3. 排水テスト後は、本体部まで配管の断熱をしてください。



グロメットをはずす。
テスト後は、必ずはめておいてください。

ドレンポンプ運転方法

●電気配線工事が完了している場合

ドレンポンプの運転がリモコン(ワイヤード)操作により可能です。
運転操作方法は、付属の電気配線工事説明書の⑥ドレンポンプ運転操作をご覧ください。

●電気配線工事が完了していない場合

室内機基板上の設定を応急運転(SW9-3 ON)にし、かつ、基板上のコネクタCnBを抜いた後、電源ON(端子台①②へAC200V)15秒後にドレンポンプは連続運転します。


注意: 送風機も同時に運転しますのでご注意ください。
排水テスト後は、必ず応急運転設定を元の状態(SW9-3 OFF)に戻し、かつ、基板上のコネクタCnBを差し込んでください。

⑧ パネル取付

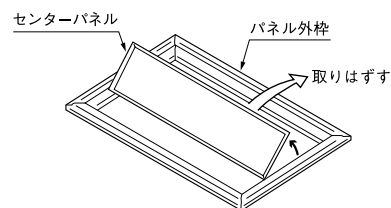
パネルに付属されているフィルタをユニットに取り付けてください。
取付け要領は下記のフィルター取付け方法により取付けてください。

サイレントパネルの場合

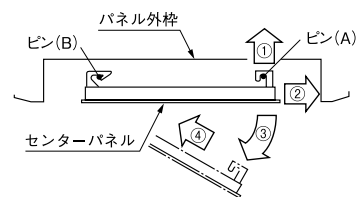
<付属品>

丸小ねじ (M5×35)		4個	パネル取付用
-----------------	---	----	--------

①パネル内枠を外してください。

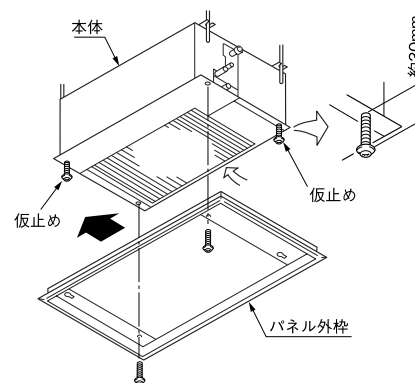


<センターパネルの外し方>



- ①矢印①→②順でピン(A)より外してください。
②矢印③のようにすこし開き矢印④の方向へ移動させてピン(B)より外してください。

②パネル外枠を本体に取り付けてください。



- ①パネル取付ねじ (パネル付属品) 4本のうち2本を図のように仮止めしてください。
②パネル外枠を仮止めたねじに引っ掛け、図の矢印の方向へスライドさせ仮止めしてください。
(注) パネル外枠の装着には方向性があります。
③仮止めたねじ及び残りのねじ(2本)を締付けてください。
④センターパネルを①項で外す逆の要領で取付けてください。

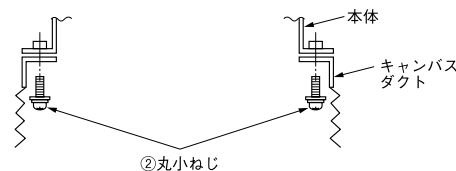
キャンバスパネルの場合

注) キャンバスパネルの取付には
キャンバスダクト (別売品) が必要です。

<付属品>

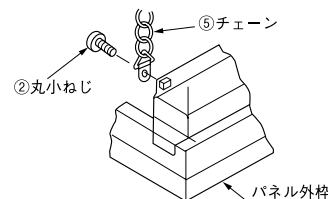
① 丸小ねじ (M4×16)		4個	パネル固定
② 丸小ねじ (M5×16)		8個	キャンバスダクト固定 チェーン固定
③ 丸小ねじ (M5×25)		4個	チェーン固定
④ホルダー		4個	
⑤チェーン		4個	

①キャンバスダクト (別売品) を本体に取り付けてください。
(4ヶ所)



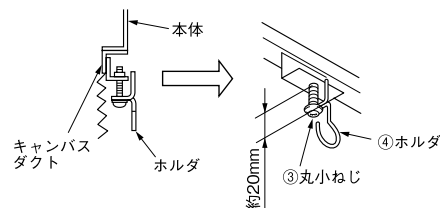
②センターパネルを上項に示す、サイレントパネルの場合と同じ要領で取外してください。

③パネル外枠にチェーンを取付けてください。(4ヶ所)

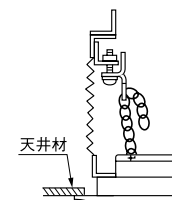


④パネル外枠を取付けてください。

⑤ホルダーを下図に示すように仮止めしてください。



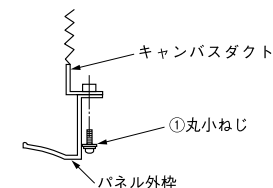
⑥パネル外枠のチェーンをホルダーに引っかけてください。



注) チェーンを引っかける際は、パネル外枠を天井材にできるだけ密着させた状態でチェーンにたるみのないように行ってください。

⑦パネル外枠を天井材と密着するまで⑤項の③丸小ねじにより吊り上げてください。

⑧キャンバスダクトとパネル外枠をねじ止めしてください。

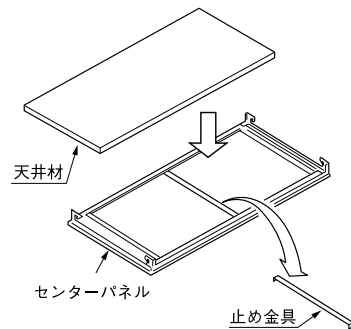


⑨センターパネルを上項に示すサイレントパネルの場合と同じ要領で取付けてください。

天井材の取付け (天井材嵌めこみパネルの場合のみ)

天井材嵌めこみパネルの場合は、センターパネルに天井材を取付けてください。

- ① 止め金具を外してください。
- ② 天井材を取付けてください。
- ③ はじめに外した止め金具を天井材を押さえ込んで取付けてください。

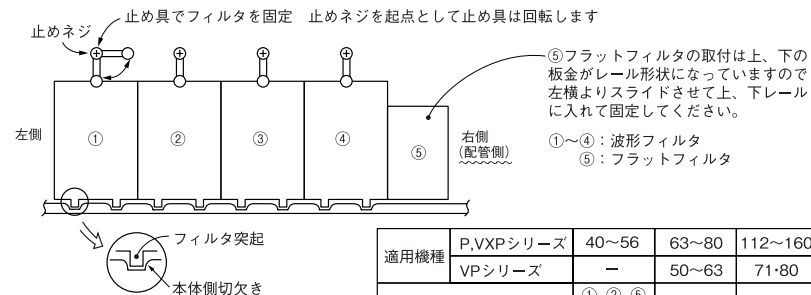


天井材サイズ (板厚：最大15mm)

	パネル形式	天井材
キャンバス パネル	R-PNBC-27WB	756×330
	R-PNBC-37WB	956×330
	R-PNBC-47WB	1376×330
サイレント パネル	R-PNBS-27WB	932×495
	R-PNBS-37WB	1132×495
	R-PNBS-47WB	1552×495

フィルタの取付け方法

- パネルに付属のフィルタを以下の手順でユニットに取付けてください。
- 取付は平フィルタから行ってください。一番右側（配管側）に取付けてください。
波形フィルタを順次取付けてください。④→③→②→①
波形フィルタについてはフィルタ枠についている突起を本体側の切欠きに合わせて取付けてください。上部は止め具で固定してください。（下図参照ください。）
- 波形フィルタ同士は隙間をふさぐように互いに重なり合うようになっています。取付時は連結するように取付けてください。



適用機種	P,VXPシリーズ	40～56	63～80	112～160
	VPシリーズ	—	50～63	71・80
フィルタ		①, ②, ⑤ ①小, ②大	①～③, ⑤	①～④, ⑤

⑨ 電気工事及び試運転

電気工事及び試運転は別紙の電気配線工事説明書をご覧ください。

セゾンエアコン 電気配線工事説明書

FDRVXP 402B, 452B, 1122B～1602B
FDRV 502B～802B

FDRP 502B～802B

PJR012D305

電気配線工事

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

⑦ 電源・室内外接続線

お願い
 室内外接続線は必ず3心ケーブルを使用してください。詳細は室外機据付説明書を参照ください。

警告

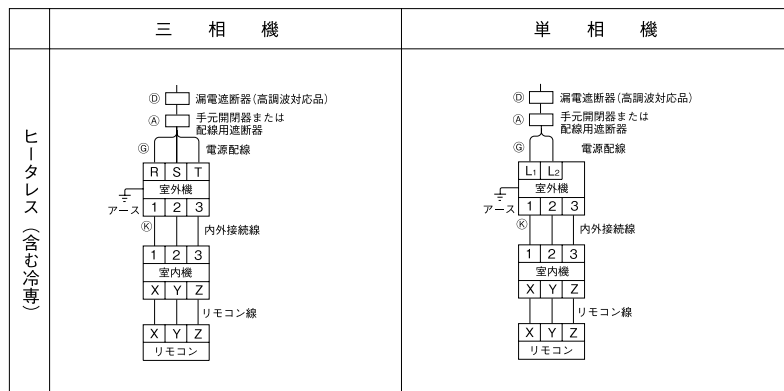
- 配線は、所定のケーブルを使用して確実に接続し、端子接続部にケーブルの外力が伝わらないように固定する。接続や固定が不完全な場合は、発熱、火災等の原因になります。
- 電気工事は、電気工士の資格のある方が、「電気設備に関する技術基準」、「内線規程」及びこの据付工事説明書に従って施工し、必ず専用回路とし、かつ定格の電圧、ブレーカーを使用する。電源回路容量不足や施工不備があると感電、火災等の原因になります。

注意

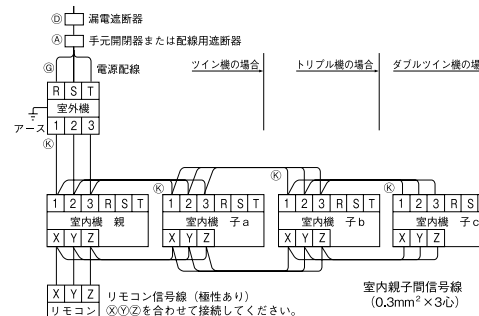
- アース工事を行う。アース線は、ガス管、水道管、避雷針、電話のアース線に接続しないでください。アース線が不完全な場合は感電の原因になります。
- 電源には必ず漏電遮断器（高調波対応品）を取付ける。漏電遮断器が取付けられていないと感電の原因になります。
- 正しい容量のブレーカー（漏電遮断器・手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）・配線用遮断器）を使用する。大きな容量のブレーカーを使用すると、故障や火災等の原因になります。

シングル機の結線

- ①電源の取り方は下表の接続パターンから選定し、行ってください。室内電源取り及び室内外別電源取りは原則できません。
 ※例外的な接続方法の場合は技術資料を参照のうえ、所轄の電力会社にご相談の上指示に従ってください。
- ②室内外接続線は極性がありますので、必ず同一端子台番号間を接続してください。
- ③電源には必ず漏電遮断器を取付けてください。漏電遮断器は、インバータ回路用遮断器（三菱電機製NVCシリーズまたは、その同等品）を選定してください。
- ④漏電遮断器が地絡保護専用の場合には、漏電遮断器と直列に手元開閉器（開閉器+B種ヒューズ）または、配線用遮断器が必要となります。



ツイン・トリプル・Wツイン機の結線



- ①室内親・子機間は端子台①②③及び⑧⑨⑩の同一番号間を接続してください。
- ②室内基板上のロータリスイッチSW2により、同一冷媒系統すべての室内機を同一アドレスに設定してください。
- ③室内子機は、室内基板上のアドレススイッチSW5-1, SW5-2により、子a～子cに設定してください。

④電源投入後、リモコンの「エアコンNo./点検」スイッチを押し、接続されている室内親・子機No.がリモコンに表示される事を必ず確認してください。

室内機の親・子設定方法

工場出荷時「親」設定		室 内 機			
		親	子 a	子 b	子 c
室 内 基 板	SW5-1	OFF	OFF	ON	ON
ア ド レ ス ス イ ッ チ	SW5-2	OFF	ON	OFF	ON

開閉器・配線仕様

〈シングル機：ヒータレス〉

- 注（1）配線こう長は、電圧降下2%とした場合を示します。表示の配線こう長を超える場合は、内線規程により配線太さを見直してください。
 ⑧の記載なき欄の配線こう長は50mです。
- （2）ヒータレス時の室外機アース線については、室外機据付説明書の電気配線の所をご覧ください。
- （3）衝撃波不動作形のブレーカーを使用してください。
- （4）XPシリーズの室外機と組合わせる場合はXPシリーズの欄、VPシリーズの室外機と組合わせる場合はVPシリーズの欄をご覧ください。

X P シ リ ー ズ ヒ ー タ レ ス （含む冷専）	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)
		⑧	⑨	⑩	太さ×本数	こう長	⑪ ⑫
単相	P40～P56						φ1.6×3
	P63						φ1.6×3
	P80						φ1.6×3
	P40～P63						φ1.6×3
三相	P80						φ1.6×3
	P112						φ1.6×3
	P140・P160						φ1.6×3

室外機据付説明書の電気配線の所をご覧ください。

V P シ リ ー ズ ヒ ー タ レ ス	室外機	漏電遮断器 定格電流	手元開閉器 開閉器容量 B種ヒューズ	配線用遮断器 定格電流	電源配線 注(1)		内外接続線 注(1)
		⑧	⑨	⑩	太さ×本数	こう長	⑪ ⑫
単相	P40～P56						φ1.6×3
	P63・P80						φ1.6×3
	P40～P56						φ1.6×3
三相	P63・P80						φ1.6×3
	P112						φ1.6×3
	P140・P160						φ1.6×3
							φ1.6×3

室外機据付説明書の電気配線の所をご覧ください。

⑧ リモコン リモコンは別売です。

リモコンの据付

お願い 次の位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

注意

リモコンの上ケースを取り外した場合は、リモコンを据付けるまで、基板上にゴミ或いは水分等が付着しないように、梱装箱或いは梱包用袋に入れて保護してください。

リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

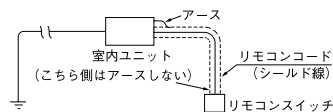
コードは必ずシールド線を使用してください。

- 全形式：0.3mm²×3心【MVVS3C（京阪電線）】

注 (1) 延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100～200m以内……0.5mm²×3心
- 300m以内……0.75mm²×3心
- 400m以内……1.25mm²×3心
- 600m以内……2.0mm²×3心

- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。



取付要領

露出取付

- ① リモコンケースをはずしてください。
● リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ② リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
● リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③ リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。
- ④ リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。
端子：⑧赤線、⑨白線、⑩黒線
リモコンコードは、0.3mm²（推奨）～最大0.5mm²以下としてください。

また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。
各配線の皮むき長さは下記の通りです。

- 黒：195mm
- 白：205mm
- 赤：215mm

- ⑤ 上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥ リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

⑤ 機能の設定の項をご覧ください。

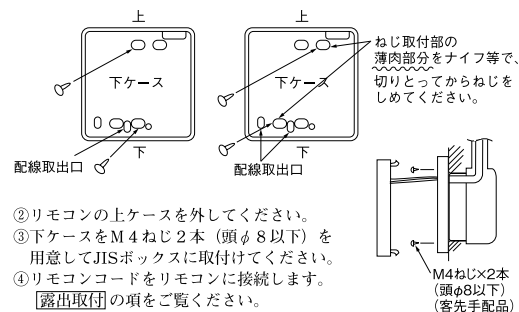
埋込取付

- ① JISボックスとリモコンコード（延長の場合はシールド線を必ず使用）をあらかじめ埋込んでおきます。

〔使用可能JISボックス〕

- JIS C 8336
- 1 個用スイッチボックス
- 2 個用スイッチボックス

1 個用スイッチボックスの場合 2 個用スイッチボックスの場合



- ② リモコンの上ケースを外してください。
- ③ 下ケースをM4ねじ2本（頭φ8以下）を用意してJISボックスに取付けてください。
- ④ リモコンコードをリモコンに接続します。
〔露出取付〕の項をご覧ください。
- ⑤ 上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥ 室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。

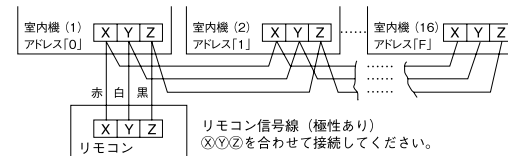
⑤ 機能の設定の項をご覧ください。

⑨ 1リモコンによる複数台室内機制御

室内ユニット最大16台まで接続可能です。

- ① 各室内ユニット間を3心のリモコン線にて渡り配線してください。
延長リモコン線については、前記の項「リモコンコードを延長する場合の注意」をご覧ください。
- ② 室内基板上のロータリースイッチSW2により、リモコン通信アドレスを重複しないよう「O」～「F」に設定してください。

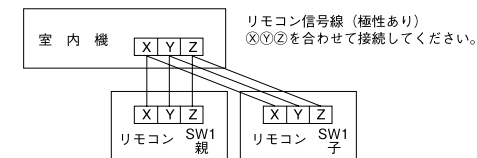
- ③ 電源投入後、リモコンの〔エアコンNo〕を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲ ▼ ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。



⑩ 複数リモコン使用時の親子設定

室内ユニット1台（又は1グループ）に対して最大2個までのリモコンを接続できます。

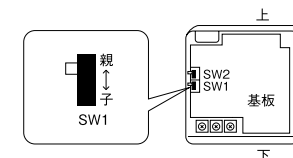
- ① 子リモコンのリモコン連絡線（3心）は室内ユニットから取る方法と親リモコンからの渡り配線による方法があります。



- ② 子リモコンの切換スイッチSW1を子に設定してください。
工場出荷時は親設定です。

〔注〕リモコンセンサ有効設定は親リモコンのみ可能です。
親リモコンを室温検知させる位置に取付けてください。

スイッチ	設定	機能の内容
SW1	親	親リモコン
	子	子リモコン



⑪ 機能の設定

- 本機の各機能は、リモコンと室内機を接続した際に、標準的な設定である、下表「○」印の項目に、自動的に設定されます。
従って、新たに設定をする必要はありません。
但し、「○」印の初期設定を変更したい場合は、その機能番号の項目のみ、設定をしてください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。
- 〻の項目は、本機には機能がありませんので、設定しないでください。

(1) リモコン機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	初期設定
01	グリップ昇降設定	昇降無効 有効50Hz地区 有効60Hz地区	標準
02	自動運転設定	自動運転有効 自動運転無効	標準
03	温度設定	温度設定有効 温度設定禁止	標準
04	運転切換	運転切換有効 運転切換禁止	標準
05	運転/停止	運転/停止有効 運転/停止禁止	標準
06	風量調整	風量調整有効 風量調整禁止	標準
07	風内調整	風内調整有効 風内調整禁止	標準
08	タイマ	タイマ有効 タイマ禁止	標準
09	リモコン設定	リモコン有効 リモコン無効	標準
10	停電補償設定	停電補償有効 停電補償無効	標準
11	換気設定	換気接続なし 換気接続あり	標準
12	温度範囲設定	表示変更有効 表示変更無効	標準
13	室内ファン速調	ファン3速 ファン2速 ファン1速	標準
14	冷凍/ヒートポンプ	冷凍 ヒートポンプ	標準
15	外部入力設定	個別運転 全台同一運転	標準
16	LED表示設定	LED表示あり LED表示なし	標準
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフル停止	標準

(2) 室内機能

機能番号A	機能内容B	設定内容C	初期設定
01	高天井設定	標準 高天井1 表示しない 180時間後 600時間後 1000時間後 1000時間→停止	標準
03	フィルタサイン設定	標準	標準
04	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止 ルーバフル停止	標準
05	外部入力切換	LED入力 B入力	標準
06	運転許可/禁止	通常運転 有効	標準
07	暖房室温補正	通常運転 室温補正+3℃	標準
08	暖房ファン制御	弱風 停止→弱風	標準
09	凍結防止温度	2.5℃ 1℃	標準
10	凍結防止制御	ファン制御有効 ファン制御無効	標準
11	電気集塵機	ファン制御有効 ファン制御無効	標準
12	加湿器制御	ドレンモータ非連動 ドレンモータ連動	標準

注1:「※」印の初期設定は、接続される室外機の機種(ヒートポンプ機/冷凍機)により、自動判別されます。

注2: (1)リモコン機能の⑦ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

2. 冷房試運転の解除

運転/停止 ボタン又は、温度設定 ☐ ☐ ボタンを押すと、冷房試運転を終了します。
「冷房試運転」表示が消灯します。

運転データの確認

リモコン操作により、運転データの確認ができます。

① ☐ ボタンを押します。
「項目 ☐ で選択」→「☐ で決定」→「運転データ表示 ☐ 」と、表示が切り換わります。

② 「運転データ表示 ☐ 」の表示で、☐ ボタンを押します。

③ 表示が「室内00▲」(点滅)となります。

☐ ☐ ボタンで、表示したい室内機番号を選びます。

(室内機が一台しか接続されていない時は、室内番号は切り換わりません。)

④ ☐ ボタンにより確定します。
(室内機番号が点滅から点灯に変わります。)
「データ読込中」(データを讀込む間点滅表示)

↓
「運転データ ☐ 」と表示され、01番のデータが表示されます。

⑤ ☐ ☐ ボタンにより、現在の運転データを01番より順に表示します。
表示される項目は右記の通りです。

※機種により該当するデータがないものは、その項目は表示されません。

⑥ 室内機を変更する場合は、☐ ボタンを押すことにより、室内機選択表示に戻ります。

⑦ ☐ ☐ ボタンを押すと、終了します。

設定の途中で、☐ ☐ ボタンを押すと、一回前の設定画面に戻ります。

番号	データ項目
01	運転モード
02	設定温度
03	吸込温度
04	内熱交温度1
05	内熱交温度2
07	室内ファン速度
11	室内運転時間
21	外気温度
22	外熱交温度1
23	外熱交温度2
24	運転Hz
26	低圧
27	吐出管温度
28	ドレン下温度
29	CT電流
31	室外ファン速度
32	静音モード有効/無効
33	63H2 ON/OFF
34	63H1 ON/OFF
35	デフロスト ON/OFF
36	コップ運転時間
37	膨張弁開度1
38	膨張弁開度2

F ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。

リモコンを次の手順で操作してください。

1. ドレンポンプ強制運転の開始

- ① ☐ ボタンを3秒以上押します。
「項目 ☐ で選択」→「☐ で決定」→「冷房試運転 ☐ 」と、表示が切り換わります。
- ② 「冷房試運転 ☐ 」の表示の時に、☐ ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転 ☐ 」を表示させます。
- ③ ☐ ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示: 「ドレンポンプ運転」→「☐ で停止」

2. ドレンポンプ運転の解除

- ④ ☐ ボタン又は、☐ ☐ ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

G 冷房試運転操作

リモコンを次の手順で操作してください。

1. 冷房試運転の開始

- ① ☐ ☐ ボタンを押して、運転します。
- ② ☐ ☐ ボタンにより、「冷房」を選択します。
- ③ ☐ ボタンを3秒以上押します。
「項目 ☐ で選択」→「☐ で決定」→「冷房試運転 ☐ 」と、表示が切り換わります。
- ④ 「冷房試運転 ☐ 」の表示で、☐ ボタンを押すと、冷房試運転を開始します。
表示は、「冷房試運転」となります。

H 制御の切換

(注) ☐ 囲みは、工場出荷時の設定

J-1	<input type="checkbox"/> 短絡	遠方運転入力 (CnT) をレベル入力	SW9-1	自動昇降パネルの降下長さの設定
	<input type="checkbox"/> 開放	遠方運転入力 (CnT) をパルス入力	SW9-2	
J-2	<input type="checkbox"/> 短絡	暖房サーモOFF時弱風	SW9-3	OFF
	<input type="checkbox"/> 開放	暖房サーモOFF後5分間停止し弱風	ON	応急運転(基板上のコネクタCnBも同時に抜く)
J-3	<input type="checkbox"/> 短絡	通常運転	SW9-4	OFF
	<input type="checkbox"/> 開放	遠方運転入力 (CnT) により運転制御	ON	高天井制御(ファン回転数アップ)
J-4	<input type="checkbox"/> 短絡			
	<input type="checkbox"/> 開放	暖房室温検知補正+3℃		

送風装置タップ切換

出荷時送風機は、標準タップ接続となっております。

高性能フィルタ等の取付により、静圧を上げる場合は、リモコンにより下記設定を行ってください。

①機能設定の「室内機能」を選択し、機能番号「01 高天井設定」を変更してください。

操作方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

機能番号A	機能内容B	設定内容C	出荷時設定	備考
01	高天井設定	標準	<input type="checkbox"/>	標準タップ
		高天井1	<input type="checkbox"/>	高速タップ

セゾンエアコン 中静圧ダクト機改修キット取付要領

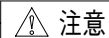
FDRVXP 402B, 452B, 1122B～1602B
FDRVP 502B～802B

FDRP 502B～802B

PJZ012D054 

中静圧ダクト機改修キット取付要領

本取扱説明書は、中静圧ダクト機の吸込口をユニット下面から側面に変更するための改修要領書です。以下の内容に従って作業を実施して下さい。


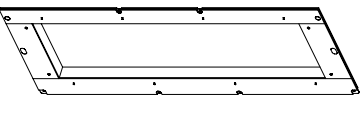
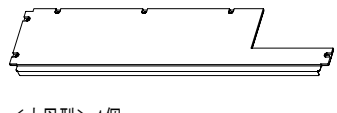
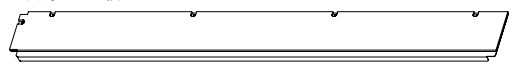
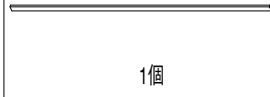



- 注意**
- (1) 本作業は、開梱し床面に置いた状態で実施すること。
 ・据付後に実施すると、作業が大変困難になります。
 - (2) 本作業中は、電源を接続しないこと。
 ・運転中あるいは通電時は、感電や回転物に巻き込まれて怪我をする恐れがあります。

1.対象機種と改修キット部番対応表

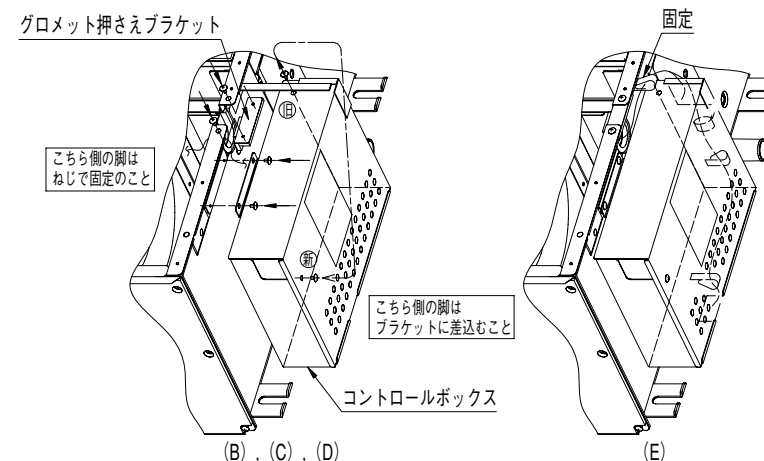
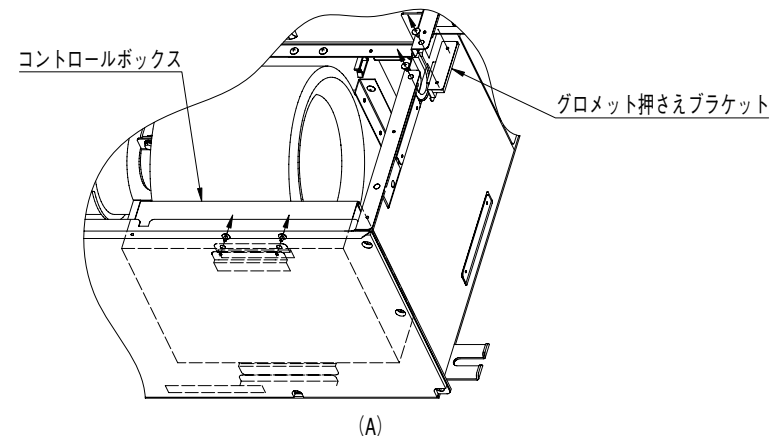
	小母型	中母型	大母型
マルチタイプ	P22～56	P71,90	P112,140
標準タイプ	P40～56	P63,80	P112～160
ハイパータイプ	P40,45	P50～63	P80～160
改修キット	R-UM-27WB (PJZ006A097)	R-UM-37WB (PJZ006A097A)	R-UM-47WB (PJZ006A097B)

2.改修キット部品一覧

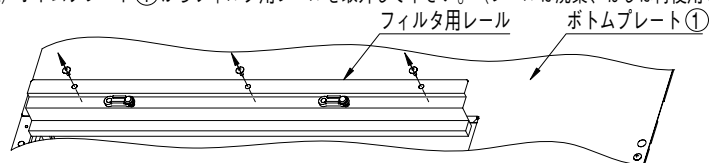
インシュレーション①	ダクトジョイント	
 1個	 1個	
ボトムプレート②	インシュレーション②	タッピンねじ
<小・中母型> 1個  <大母型> 1個 	 1個	 16個 うち予備 小・中母型：3個 大母型：2個 ※改修時に本体から 取外したねじは 再使用します。

3.取付要領 (図はユニットを床面に置いた状態を示しています。(据付後は上下逆になります。))

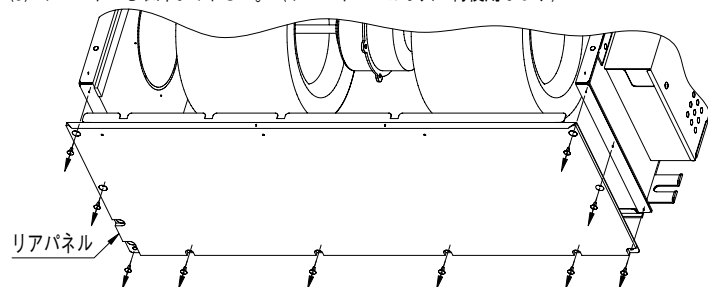
- (1) コントロールボックスを外側に移設します。
 - (A) コントロールボックスとグローメット押さえブラケットを外して下さい。(再使用します)
 - (B) グロメットに配線を通して、コントロールボックスを外に取付けて下さい。
 - (C) グロメット押さえブラケットを取付けて下さい。
 - (D) コントロールリッドの取付けねじを下記の位置に付け替えて下さい。
 - (E) コントロールボックスの配線を図の経路となる様に固定して下さい。



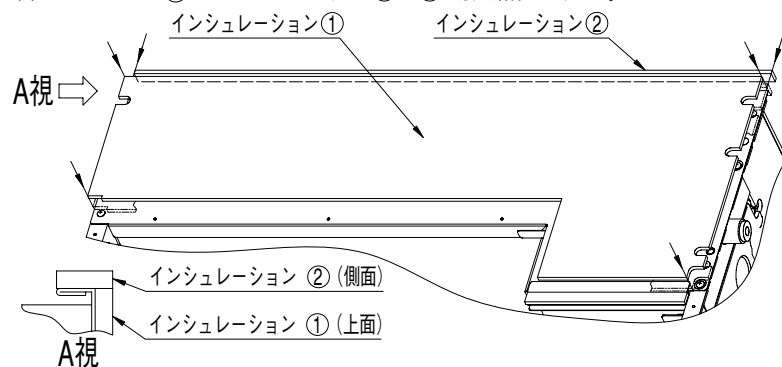
(2) ボトムプレート①からフィルタ用レールを取外して下さい。(レールは廃棄、ねじは再使用します)



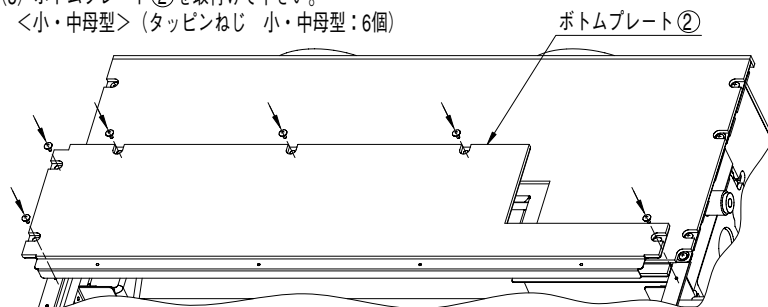
(3) リアパネルを取外して下さい。(リアパネル・ねじ共に再使用します)



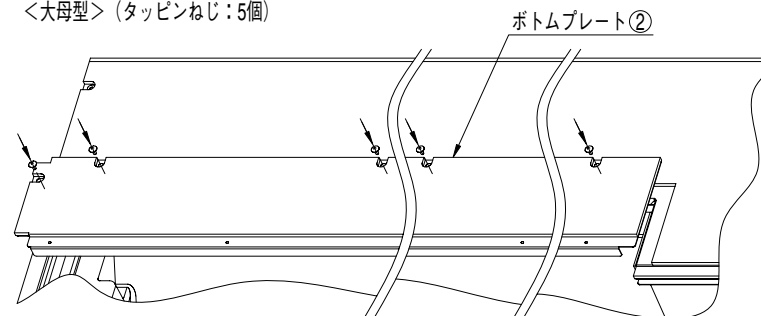
(4) ボトムプレート①にインシュレーションを①→②の順で貼付けて下さい。



(5) ボトムプレート②を取付けて下さい。
 <小・中母型> (タッピンねじ 小・中母型:6個)

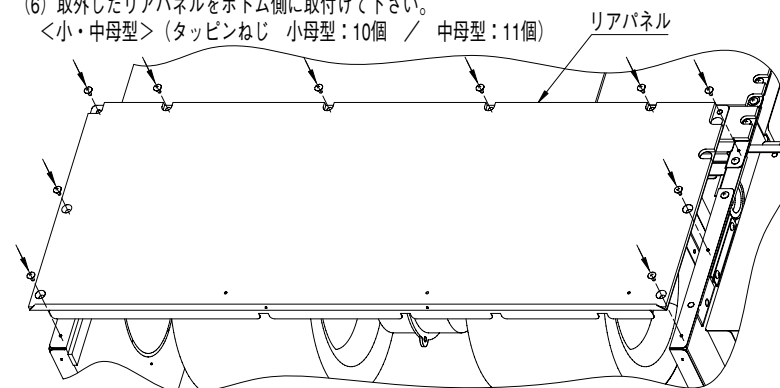


<大母型> (タッピンねじ:5個)

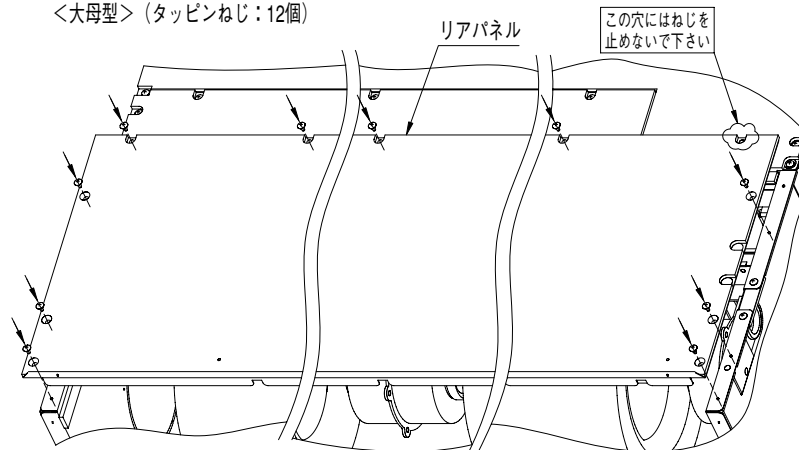


(6) 取外したリアパネルをボトム側に取付けて下さい。

<小・中母型> (タッピンねじ 小母型:10個 / 中母型:11個)



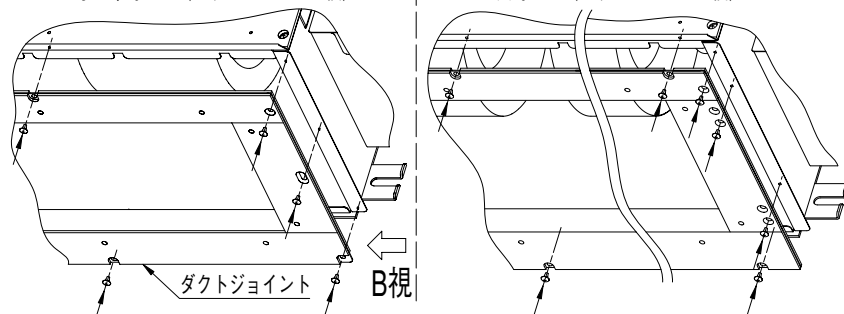
<大母型> (タッピンねじ:12個)



(7) フランジを内側にして、ダクトジョイントを取付けて下さい。

<小・中母型> (タッピンねじ：10個)

<大母型> (タッピンねじ：14個)

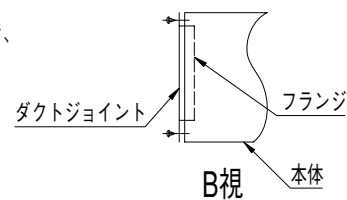


※上下方向の間違いに注意して下さい。

※<大母型>ダクトジョイントの穴は使用しない箇所もありますので、

本体側の取付穴を確認してねじを締めて下さい。

※必要に応じてフランジを外側にして取付けることも可能です。



(8) パネル間の合わせ部にガタや隙間が無いこと、
ねじの締め忘れが無いことを確認して下さい。